

予 算 要 求 資 料

令和8年度当初予算

支出科目 款：衛生費 項：保健予防費 目：成人病予防費

事業名 脳卒中・心臓病等総合支援センター支援事業費補助金

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

健康福祉部 保健医療課 健康増進係 電話番号：058-272-1111(内3317)

E-mail : c11223@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 11,000 千円 (前年度予算額： 12,000 千円)

＜財源内訳＞

| 区分 | 事業費 | 財源内訳 | | | | | | | |
|-----|--------|-------|--------|--------|------|-----|-----|----|-------|
| | | 国庫支出金 | 分担金負担金 | 使用料手数料 | 財産収入 | 寄附金 | その他 | 県債 | 一般財源 |
| 前年度 | 12,000 | 6,000 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 6,000 |
| 要求額 | 11,000 | 5,500 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 5,500 |
| 決定額 | | | | | | | | | |

2 要求内容

(1) 要求の趣旨（現状と課題）

厚生労働省では、脳卒中・心臓病等（循環器病）患者の包括的な支援体制を構築するため、専門的な知識を有し、地域の情報提供等の中心的な役割を担う医療機関に脳卒中・心臓病等総合支援センターを配置するモデル事業を令和4年度から展開しており、岐阜大学医学部附属病院は令和6年度のモデル事業に採択され、令和6年8月1日に開設した。

脳卒中や心臓病は後遺症や様々な合併症のリスクがあるため、リハビリ・就労就学支援・福祉サービスによる支援などに関する継続的な情報提供と相談支援が不可欠であり、岐阜大学医学部附属病院に開設された「脳卒中・心臓病等総合支援センター」を支援していく必要がある。

(2) 事業内容

地域の中心的な医療機関である岐阜大学医学部附属病院に開設された「脳卒中・心臓病等総合支援センター」が実施する患者及びその家族に対する情報提供及び相談支援等に対する総合的な取組みを支援する。

- 循環器病患者・家族の相談支援窓口
- 地域住民を対象とした循環器病の情報提供、普及啓発
- 地域の医療機関、かかりつけ医を対象とした研修会、勉強会の開催
- 医療機関、多職種間の連携会議の開催

(3) 県負担・補助率の考え方

第8期岐阜県保健医療計画及び第2期岐阜県循環器病対策推進計画において、「脳卒中・心臓病等総合支援センター」の開設により、地域全体の患者支援体制の充実を図ることとしており、県が負担することは妥当である。

財源：国庫補助1/2（循環器病特別対策事業）

(4) 類似事業の有無

生活習慣病医療連携推進事業費

生活習慣病予防啓発事業費

3 事業費の積算 内訳

| 事業内容 | 金額 | 事業内容の詳細 |
|------|--------|------------------------|
| 補助金 | 11,000 | 脳卒中・心臓病等総合支援センター運営費補助金 |
| 合計 | 11,000 | |

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

○第8期岐阜県保健医療計画 第3章第2節・第3節

「国は、専門的な知識を有し、地域の情報提供等の中心的な役割を担う医療機関に「脳卒中・心臓病等総合支援センター」を配置し、センターは都道府県と連携を取りながら、地域の医療機関を支援し、協力体制を強化することとしています。本県においても「脳卒中・心臓病等総合支援センター」を開設し、地域全体の患者支援体制の充実を図る必要があります。」

○第2期岐阜県循環器病対策推進計画 第3節1

「患者やその家族が、急性期からの個別の疾患の特性によって異なるニーズに対応した必要な情報に確実にアクセスでき、問題解決に繋げることができるよう、適切かつ継続的な相談支援を行う脳卒中・心臓病等総合支援センタ一体制の設置を進めます。」

(2) 後年度の財政負担

保健医療計画等の目標達成に向け、継続的な取組が必要。

(3) 事業主体及びその妥当性

国モデル事業の実施主体であり、県内外の医療機関と円滑な連携が可能な岐阜大学医学部附属病院による実施が妥当。

事 業 評 価 調 書 (県単独補助金除く)

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

(事業目標)

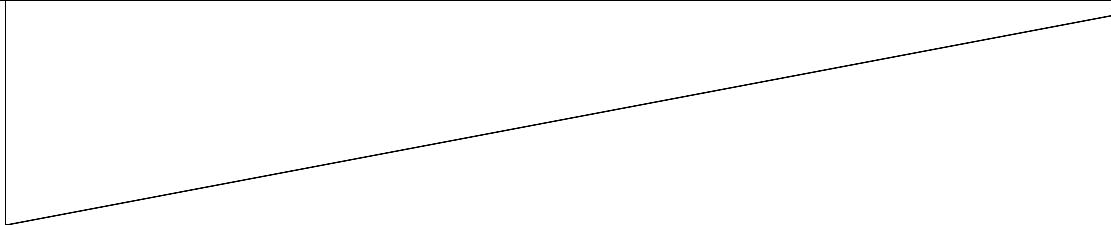
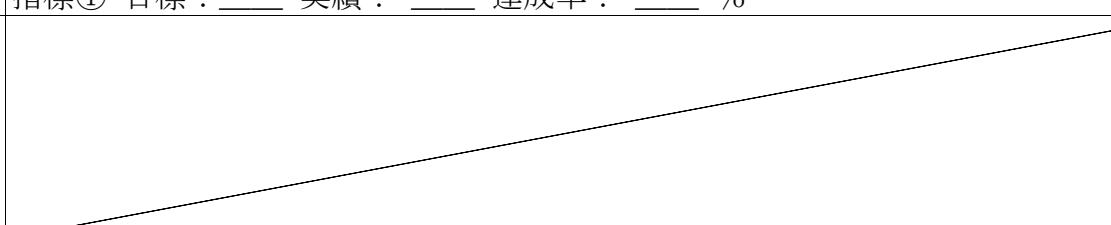
- ・何をいつまでにどのような状態にしたいのか
- ・終期までに脳卒中や心臓病等に罹患した患者の在宅等への復帰や日常生活の継続を支援するため、多職種間の連携による相談・支援体制の充実を図る。
- ・上記に取り組む地域の医療機関を支援し、協力体制を強化する。

(目標の達成度を示す指標と実績)

| 指標名 | 事業開始前 (R4) | R6年度 実績 | R7年度 目標 | R8年度 目標 | 終期目標 (R11) | 達成率 |
|---------------|--------------------|------------|------------|------------|---------------|-----|
| ①脳血管疾患年齢調整死亡率 | 男性87.0 女性57.7 | — | — | — | 減少 | — |
| ②心疾患年齢調整死亡率 | 男性173.5 女性109.6 | — | — | — | 減少 | — |

○指標を設定することができない場合の理由

(これまでの取組内容と成果)

| | |
|-------|--|
| 令和4年度 |  |
| | 指標① 目標：____ 実績：____ 達成率：____ % |
| 令和5年度 |  |
| | 指標① 目標：____ 実績：____ 達成率：____ % |
| 令和6年度 |  |
| | 指標① 目標：____ 実績：____ 達成率：____ % |

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断)

3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない

| | |
|---|--|
| (評価) 3 | 脳卒中、心臓病等の循環器病は県の主要な死亡原因であり、介護の原因となる疾患の上位を占めている。また、循環器病は加齢とともに患者数が増加する傾向にある一方、乳幼児期から高齢期までいずれの年代でも発症する疾患でもあり、就労世代の患者も一定程度存在する。加えて、急激な発症から市に死ることは元より、重症後遺症、再発・憎悪をきたしやすいといった特徴がある。そのため、疾患の特徴と患者のライフステージに応じた総合的な相談支援体制を整備することは喫緊の課題である。 |
| ・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) | |
| 3：期待以上の成果あり 2：期待どおりの成果あり 1：期待どおりの成果が得られていない 0：ほとんど成果が得られていない | |
| (評価) 2 | 令和7年4月から9月までの相談者数は延336人であり、相談支援の提供体制は整いつつある状況。ただし、相談者のほとんどが岐阜大学病院通院・入院患者であることから、当該センターの相談実績から得られた知識、技術を県内各医療機関に設置された相談窓口へ波及させる取組が必要である。 |
| ・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) | |
| 2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている | |
| (評価) 2 | 循環器病に対する高度医療機能を持ち、地域医療機関と強固かつ有機的な連携を行う岐阜大学にセンターを設置し、センターと県循環器病対策推進協議会が連携することで、県の施策を効率的かつ効果的に推進することができている。 |

(今後の課題)

・事業が直面する課題や改善が必要な事項

県内のどこでも充実したサポートが受けられるよう、医療機関や圏域を超えた専門家の連携による支援体制の充実が重要となっている。

(次年度の方向性)

・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか

当センターを核として、県内の脳卒中・心臓病患者が、様々なニーズに対応したきめ細やかな相談や支援を受けられる体制を確立するための支援を行う。

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

| | |
|------------------------|-------|
| 組み合わせ予定のイベント又は事業名及び所管課 | 【〇〇課】 |
| 組み合わせて実施する理由や期待する効果 など | |